

新潟リハビリテーション大学大学院リサーチ・ルーブリック ()年度入学 コース() 氏名() 研究指導教員() (印)

提出日 ()

下の表は、修士論文を自ら改善するのに役立つと同時に、指導教員による指導をより効果的にするために作られたルーブリックです。Aを最も質の高い水準、以下、B、C、Dと段階が設定されています。これによって、より質の高い研究に到達するために必要なことが段階として分かります。研究指導教員との目標や進捗の確認、そして自分で研究を進める過程において、定期的に活用してください。なお、本研究科においては、すべての項目がB以上をクリアすることを修士論文審査合格の目安としています。

それぞれの項目に対してあなたの研究の現状に該当するものをA～Dから選んで○で囲んでください。また、そのように判断した理由、いずれとも判断できなかった理由について評価理由欄に記述してください。該当しない項目は評価理由欄に斜線を入れてください。

領域	評価項目	A	B	C	D	評価理由
修単 得位	コースワークの履修	A 必修科目の単位はすべて修得し、かつ課程修了要件である30単位以上を修得した	B 必要な単位を各年次の計画通りに修得し、30単位の履修に目処が立っている	C 在籍期間内の履修計画ができているが、未履修である	D 在籍期間内の履修計画が立っていない	
テ ー マ 設 定	発展可能性	A より重要な研究へと発展することが確実なテーマである	B より重要な研究へと発展することが可能なテーマである	C より重要な研究へと発展する可能性の有無についてははっきりしない	D より重要な研究への発展する可能性の見込めないテーマである	
	オリジナリティ	A 関連する先行研究を網羅した上で、当該論文のテーマが独創的であることが明確に示されている	B 関連する先行研究に当該論文と類似するテーマがないわけではないが、独自性を有すると認められる	C すでにほぼ同様のテーマの先行研究があるが、独自性を有するとも言える	D すでに、同様のテーマの先行研究が存在しており、独自性は認められない	
研 究 活 動 の 妥 当 性	計画・準備	A 研究指導教員との協議を通して研究計画書を作成し、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するか明確である	B 研究指導教員との協議を通して研究計画書を作成し、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するかほぼ明確である	C 研究指導教員との協議を通して研究計画書を作成したが、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するかやや不明確である	D いつ何をどこまで進めるか研究計画が立てられていない	
	研究倫理	A 研究に関わる倫理上の問題について、十分に考慮し、必要な対応を済ませた上で、研究活動を行っている	B 研究に関わる倫理上の問題について、十分な考慮と必要な対応を行いつつ、研究活動を行っている	C 研究に関わる倫理上の問題への考慮・対応が十分とはいえない	D 研究に関わる倫理上の問題について検討していない	
	データ・資料の管理保存	A 論文に使われたデータや資料は適切に保存され、論文提出後の照会や検証に耐えられるようになっている	B データや資料は保存されており、照会や検証にも対応可能である	C 適切に保存できていないデータや資料が一部存在する	D データや資料は保存できておらず、どこにあるか把握できていない	
研 究 の 内 容 と そ の 記 述	目的の明示	A 研究の目的が明確に述べられており、その目的のために当該研究で何をどう進めていくのかというプランも明確にされている	B 研究の目的は述べられており、その目的を達成するためにどのように進めていくのかもほぼ明らかである	C 研究の目的はおおよそ述べられているが、その目的を達成するためにどのように進めていくかはやや不明確である	D 研究の目的が明確には述べられていない	
	研究方法の妥当性	A 研究目的を達成するために最もふさわしいと考えられる研究方法を選択している	B 研究目的を達成するのに適していると考えられる研究方法を採用している	C 研究目的を達成するのにふさわしい研究方法であるかやや疑問である、あるいは他にさらに適当な方法が存在している	D 研究目的と研究方法が合致していない	
	記述法・ルール	A 論文の本文は学術的な記述法で書かれ、修士論文の執筆要領に従って書かれている	B 論文の本文は学術的な記述法で書かれ、修士論文の執筆要領にもほぼ従っている	C 論文の本文は学術的な記述法で書かれたというには不十分であり、修士論文の執筆要領に従っていない部分がある	D 論文の本文は学術的な記述法で書かれておらず、修士論文の執筆要領にもあまり従っていない	
	データ・資料の量	A 研究目的を達成するために選択した研究方法、分析方法を実施するのに十分適合する量のデータ・資料を収集している	B 研究目的を達成するために選択した研究方法、分析方法を実施するのにほぼ十分な量のデータ・資料を収集している	C データ・資料を収集しているが、選択した研究方法、分析方法を実施するのに十分な量とはいえない	D 収集した量のデータ・資料では、選択した研究方法、分析方法を実施できない	
	分析方法	A 研究目的を達成するために選択した研究方法にふさわしい分析方法が行われており、当該分野における一定の水準を超えている	B 研究目的を達成するために選択した研究方法にふさわしい分析方法が行われており、当該分野における一定の水準に到達している	C 分析方法は、おおよそ研究方法にそったものであるが、一定の水準に到達していないところがある、あるいは、さらに適当な分析方法が考えられる	D 分析方法の選択が間違っている、あるいは、一定水準に到達していない	
	結果の表現	A 結果を適切に表現するために、適切な図表等が作成・配置されている	B 結果を適切に表現するために必要な図表等がおおよそ作成されており、ほぼ問題なく配置されている	C 結果を表現するために図表等が用いられているが、必要とはいえないものや冗長なものがあつたり、ないために理解しにくい箇所がある	D 結果を表現するために必要な図表等がほとんど作成されていない	
	結果の解釈とまとめ	A 参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈を行っている。予想や仮説に一致しない結果も重要な結果として捉えている	B 参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈を行っている。予想や仮説に一致しない結果は例外として処理している	C 結果の解釈そのものに歪曲はないが、一部に予想や仮説に一致した点だけを結果として捉えている箇所がある	D 予想や仮説に一致する結果だけを報告している、あるいは結果の解釈に一部歪曲が認められる	
成 果	成果の水準	A 当該分野において、これまで解決できなかったことを解決する知見、あるいは新しい事象の発見を参考資料や得られたデータに基づいて提供している	B 当該分野において有意義な知見や発見を参考資料や得られたデータに基づいて提供している	C 得られた知見が、当該分野において有意義なものといえるかどうか、やや疑問が残る	D 当該分野において有意義な知見が得られたとはいえない	
	成果の公表	A 学内での発表に加え、関連学会での発表、または雑誌等への投稿によって、研究成果を公表している	B 学内の発表会あるいは関連する学会で研究成果を十分に発表することができた	C 学内の研究成果発表は行ったが、成果を十分に示すことができなかった	D 学内の研究成果発表を行っていない	
	臨床現場への貢献	A 研究によって明らかとなった知見や成果物を臨床現場等の実践者へ提供し、役立てることが決まっている	B 少し手を加えれば、研究によって明らかとなった知見や成果物を臨床現場等の実践者に役立ててもらえる	C かなり手を加えないと、研究によって得られた成果を臨床現場等の実践者に役立ててもらうことは難しい	D 臨床現場等の実践者に役立ててもらえるような成果は得られなかった	